

# 武蔵野東高等専修学校

## 2019 年度 学校自己点検・評価

平成 14 年 4 月に専修学校設置基準の一部改正により、専修学校は、「教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。」と定められました。これを受けて本校では、平成 15 年度より、自己点検評価票を作成しております。そして、平成 19 年度からは、本校の教育方針、現状や今後取り組むべき課題を「自己点検評価票」としてまとめ、ホームページにて公表することにいたしました。本校の現状を御理解いただきたく参考となれば幸いです。なお、本校は、この自己点検・評価を基に、学校を挙げて改善・改革に取り組み、より良い教育活動を行うように努めております。

教育目標	「理想(VISION) 一世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる」を校訓に掲げ、中学校までの義務教育の課程で養われた基礎の上に、社会自立のために、職業技術や専門知識、人間としての基礎的な教養や生活力を身につけさせ、実社会や上級校に送り出すことを目標としています。
教育の特徴	・技能を身につけ、資格を取得する職業教育 ・健常児と自閉症児が互いに良い影響を与え合う混合教育の中での人間教育

I 教育の目標と重点	取り組みとその評価
2019 年度の重点項目	・進路指導(職業観の育成) ・自己開示と表現力の強化
具体的な取り組み	《進路指導(職業観の育成)》 ・進路指導の充実及び職業観の育成を意図して、インターンシップ・職場実習、農業従事研修、校内実習、上級学校訪問、キャリアプランニングカリキュラム等、具体的な取り組みを豊富に盛り込むことによって生徒の学ぶ力、生きる力、働く力を高めることに努めた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観の育成という点から生徒の体調の自己管理を徹底させ、全校生徒の86%が精・皆勤賞を受賞し、3年生の60%が3年間皆勤を達成した。</li> <li>・スキルアップトレーニングを強化し、個々の社会性を向上させた。</li> <li>・チャレンジショップ「ゆう&amp;あい」が、インターンシップの場として定着し、更に3学年の調理・製菓コースとタイアップして料理を提供した。</li> </ul> <p>《 自己開示と表現力の強化 》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活と行事(スポーツ大会、林間学習、学園祭、合唱コンクール、スキー教室、北海道学習)を通して自己開示がなされた。</li> <li>・スピーチコンテスト及び、聞き取りコンテストを実施し、表現力の強化を図った。</li> <li>・キャッチコピーコンテストを実施した。</li> <li>・全校生徒が「私のしごと作文コンクール」に応募した。</li> </ul>
取り組みの成果と達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生全員の進路先が決定し、今年度も就職、進学率100%を成し遂げることができた。</li> <li>・表現力、発想力の向上に伴い人間性が豊かになった。</li> </ul>
教員・生徒・保護者への浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員・生徒への浸透度は100%に近い。</li> <li>・保護者会の出席率が90%と高く、欠席された保護者には別の日程で個別に開催し、情報の共有を図った。これにより保護者との協力体制がより強固なものになっている。</li> </ul>
<b>II 教育環境</b>	
校舎・設備等の質的・量的整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教室の机と椅子を一新した。</li> <li>・ICT教育推進の為、校舎内全域に無線LANを設置し、iPad20台を購入した。</li> </ul>
教育機器の適切性と充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad及びコンピュータ室を積極的に活用した。</li> </ul>
<b>III 教育課程</b>	
カリキュラムの特色化と適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合キャリア学科における専門コース自由選択制により、個々の目標に即した学習を提供できた。</li> <li>・武蔵野市選挙管理委員会事務局の方を招いて生徒に選挙制度に関する講義をして頂いた。また、社会科のカリキュラムにも選挙制度を位置付け授業を展開した。</li> </ul>
教育システム全体の工夫と充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合教育と習熟度別クラス編成といった環境の中で自信を獲得し、学力の向上や心身の成長につながった。</li> <li>・いじめ対策委員会が定着し、予防教育がなされた。</li> </ul>

行事活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の中から実行委員長が選出され、スポーツ大会、紫峰祭(学園祭)、合唱コンクールなど生徒自らが主体的に企画、運営した。</li> </ul>
校外教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道学習、林間学習、キャンプ実習、スキー教室、農業従事研修を実施した。</li> </ul>
<b>IV 教科指導</b>	
指導計画と教員配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画及び週の立案により計画通り進み、教員配置も問題なかった。</li> </ul>
習熟度別授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校以来、普通教科は習熟度別授業を展開している。</li> </ul>
個に即した授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日のオープンスクールにて検定試験の補習等の個別指導を行った。</li> <li>・発想力の向上を目指し発想力育成のカリキュラムをHRに導入した。</li> </ul>
資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語、漢字、ペン字、社会常識能力、電卓、ワープロ、情報処理、パソコンスピード、文書デザイン、IT活用能力、ビジネス、レタリング、食物調理検定等、多数取得。</li> </ul>
授業評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業を開催し、教育関係者、企業・福祉事業所担当者、行政関係の担当者など多くの方々から高い評価をいただいた。</li> <li>・文部科学省、厚生労働省の職員の方や近隣のハローワークの所長、また海外の教育関係者の視察を受けた。</li> <li>・年2回の「見学会」を設け、授業を公開し、評価を得ている。</li> </ul>
<b>V 生徒の活動</b>	
友愛会(生徒会)活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫峰祭(学園祭)において、生徒の隠れた才能を発表する場を設けた。</li> <li>・Web ページを通して、活動状況を生徒の生の声で情報発信する機会を多く設けた。</li> <li>・友愛会三役を中心に体験入学等において自己の体験談を発表する場を設けた。</li> <li>・入学式、学校説明会において生徒・保護者の対応をサポートした。</li> </ul>
部活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビー部、卓球部、陸上部は高体連の大会に出場。</li> <li>・全国高等専修学校体育大会において、自転車競技女子団体が優勝。</li> </ul>
各種表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私のしごと」作文コンクールで3年生野崎君が入選した。また、15年連続優秀団体賞を受賞した。</li> </ul>

<b>VI 進路指導</b>	
進路相談の充実	・生徒、保護者合同の進路説明会及び三者面談を実施した。また、個々の進路希望に即した相談にもタイムリーに対応した。
就職結果	・今年度も就職率は、100%であった。
進学結果	・全員が志望した大学(杏林大学等)、専門学校に合格した。
<b>VII 研修</b>	
内部研修	・学園全体の研修で講師を招いての研修、教科別研修を実施した。
外部研修	・高等専修学校進学研究会(中専協夏季研究協議会)に参加した。
<b>VIII その他の教育活動と公開性</b>	
保護者の協力	・後援会活動を中心にしたバザーや広報紙の発行を行った。 ・成人を祝う会を卒業生の保護者と連携して開催した。
地域との連携	・農業従事研修を通して地元 NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップ等との交流を深めた。 ・地域支援サポーター養成講座(武蔵野市)に生徒が参加し介護や高齢者ケアについて実践的に体験した。
外部との連携	・聖心インターナショナルスクールとの交流授業を実施した。 ・成年後見個別相談会を実施した。
情報発信	<p>・2019年度の文部科学省委託事業、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業(学びのセーフティネット機能の充実強化)」において、「発達障害など特別に配慮が必要な生徒の社会自立のための教育・就労支援及び卒業後の定着フォロー支援モデル事業」を受託し、外部関係機関とのさらなる連携強化とその取り組みを全国の高等専修学校をはじめとする教育機関、企業・福祉事業所、行政機関への普及・啓発に努めた。また、その一環として9月に公開授業を開催し、教育関係者、企業、福祉事業所、文部科学省、厚生労働省から多数の参加があり、本校の取り組みに対し高い評価を得られた。</p> <p>・第12回ここコン「中学生こころの作文コンクール」を実施し、93校2190編の応募をいただいた。</p> <p>・東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証を受け、体育の授業、学校行事や部活動を通じて取り組んだ。</p> <p>・『I'm POSSIBLE Award』に応募し、パラリンピックの価値(勇気、強い意志、インスピレーション、公平)について学んだ。</p>

<b>IX 安全・危機管理</b>	
緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル及び学校安全計画を作成し周知を図った。</li> <li>・コロナウイルス感染予防に対し、国・東京都の要請を受け3月を臨時休業とした。</li> <li>・登下校時の避難経路に関して保護者及び生徒と再確認を行った。</li> <li>・生徒の安全を第一に考え、防災マニュアルの見直しを行った。</li> <li>・総合訓練(通報・初期消火・避難)を実施した。</li> <li>・緊急連絡用にさくら連絡網を有効活用した。</li> </ul>
防犯・防災チェック態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防設備点検とセコムによる防犯管理を実施した。</li> <li>・防犯カメラを活用した。</li> </ul>
自転車通学者対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学者の安全を確保する免許制が定着した。</li> <li>・自転車安全講習会及び実技講習を開催し安全面の向上を図った。</li> </ul>
情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Office365によるクラウド管理を導入した。</li> </ul>
<b>X 保健・衛生</b>	
生徒及び教職員の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断を行い、健康管理に努めた。</li> <li>・学校薬剤師による空気検査及び照度検査を行い、アドバイスを教育環境に活かした。</li> <li>・インフルエンザ予防接種を実施した。</li> </ul>
衛生に関する点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の水質検査及び東京顕微鏡院による簡易水道検査を行った。</li> </ul>

## 2020年度の取り組み

- ・2020年度の重点項目も「進路指導(職業観の育成)」と「自己開示と表現力の強化」継続とした。
- ・総合キャリア学科において、より充実したキャリア教育を目指す。
- ・スピーチ力・聞き取る力、発想力の強化。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証校3年目。
- ・チャレンジショップにおけるインターンシップの教育効果の向上。
- ・南アルプスチロル学園を拠点として農業従事研修の充実。
- ・「いじめ対策委員会」を学校の予防教育に活かす。
- ・第13回中学生こころの作文コンクールの広報強化及び応募者の拡大を図る。
- ・卒業生のフォローシステムの強化及び、就職後の定着指導の更なる強化を図る。

- 文部科学省委託事業の継続。
- 本学園独自の「生活療法」のブラッシュアップを行い、教員の指導力強化を図る。
- 情報公開の推進(ホームページの改定等)
- 「MOTTAINAI」運動の展開。
- 校内照明の LED 化工事を行い、省エネ化を図る。
- 園庭の人工芝のクリーニングメンテナンスを行う。
- ICT 教育の推進。